

あなたも忘れかけていませんか

皆さんも私も日本に住んでいます。外国に住んでみたいと思うことはありませんか。私が皆さんの年代の頃には、英語を頑張って勉強して日本を飛び出したいと、いつも思っていましたよ。

しかし、今は違います。「外国に行くのは旅行程度でよい。日本に住むのが一番だ」と思っています。（年をとったからではないよ！）そう思い始めたのは高校生になってからかな。少しずつそういう気もちが強くなってきました。二十四日に、春の気配を感じてほしいというメッセージを皆さんに送りました。当たり前のようにやってくる四季ですが、それがすばらしいことだと私は思います。

春の次には、必ず夏の熱い日差しが照りつけます。夏の次には、周りを彩る秋が涼しい風を運んできます。秋の次には、凍てつくような冬の寒さが生き物に試練を与えます。そして、その試練を乗り越えた新しい命が芽吹く春へと戻ります。春夏秋冬をじっくり味わうことができるのは、日本だからこそですよ。

こういう四季の移り変わりは、ずっと昔から続いています。今と同じ空、花や木々、生きもの鳴き声、雨や雪、寒さや暑さ……百年前も千年前も、日本人は四季の変化を味わい楽しんできました。そして、それぞれの時代の中で、それを文字で残し、古（いにしえ）の文化として大切にしてきました。それが、中学生になって初めて学習する「古典教材」です。

おじいさんおばあさんがいるから、今のあなたたちが存在します。「古典」があるから今の時代がある、と言っても言い過ぎではありません。「古典」は「現代人が忘れかけている日本のよさや心を教えてくれるもの」です。

二年生の国語の教科書に「枕草子」が載っています。作者の清少納言（写真）は、今から千年も前に「春は明け方、夏は夜、秋は夕暮れ時、そして冬は早朝がすばらしい」と書いています。どうしてその頃がよいか、あなたにはわかりますか。わからないということは、あなたも日本のよさや心を忘れかけている一人かもしれないですよ。（これから、国語の教師として皆さんを古典の世界に誘います。興味があれば教科書を開けてみてくださいね。）

（四月二十八日 記）

